

【グローバル時代から完全に取り残されたショッキングな事実】

国際化時代には、経済も学問も破竹の勢いを誇り、「Japan as No.1」と言われた日本が、地球規模化的時代（グローバル化時代）になりその勢いはなくなりました。そして、日本人は自信を喪失し、行き先を見失い、自己肯定感が薄れ、糸の切れた凧のように浮遊しているようにも見えます。

名目 GDP（国内総生産 米ドルベース）〈*1〉においても、日本は2010年に中国に抜かれ〈*2〉、更にその差は12年で4倍に広がりました。国民の平均所得も世界 23 位(2021年)〈*3〉という惨憺たる状況になりました。

なぜ、そのような事態になってしまったのでしょうか。

その答えは、一言で言えば「日本が完全にグローバル化の波から取り残されてしまった」からです。

経済のグローバル化、企業のグローバル化、文化のグローバル化、人材のグローバル化、学問のグローバル化など、単に「グローバル化」と言っても、そこには種々多様なグローバル化があります。

しかし、それらに共通するのは、我々人類が係わっており、人・物・金の動き全てに、同時に変化が生じたということです。現代は、この人・物・金が、国や地域を越えて自由に飛び交う時代だということです。

さらに ITC（情報通信技術：Information and Communication Technology）の発展、発達によって、従来は莫大な費用がかかっていた通信や、長距離を移動して調査をしていた文献や資料なども、自宅にいながらに世界中から瞬時に集められるようになりました。

〈*1〉 GDP(国内総生産)とは、国内の生産活動による商品・サービスの産出額から原材料等の中間投入額を控除した付加価値の総額。

〈*2〉 2010 年 名目 GDP 日本 5 兆 7590 億ドル 中国 6 兆 338 億ドル

2022 年 名目 GDP 日本 4 兆 9122 億ドル 中国 19 兆 9116 億ドル

〈*3〉OECD 発表世界平均収入

日本の平均年収 3 万 9480 ドル (世界 23 位)

OECD 平均年収 5 万 2436 ドル

E コマースの発達で、消費物資やサービスの多くが、家にいながらアマゾン・ヤフー・楽天や、その他のサイトなどを通して購入できるようになりました。

お金のやり取りに関しても、以前は銀行に行って送金をしていたものが、自宅にいながらにスマホから送金ができるなど、様々な仕組みや環境が急激に変化していったのです。

残念な事に日本の ITC において、健康保険証ひとつをとってみても、いまだに写真も IC チップも搭載されていません。そのために、外国人による健康保険証の不正な使い回しも放置された状態です。

日本のグローバル化の遅れは、日本の官僚や政府が向いていた方向が真逆であったためであるとも言え、そのためにグローバル人材を育てることができなかったとも言えるでしょう。

【避けて通れないグローバル化】

グローバル化には、良い面と悪い面が存在しますが、その両方を理解することで、このグローバル化時代を進まなければならないのです。

国際化時代には、原材料を日本に輸入し、様々な部品に加工し、その部品を利用して完成品を作り、それらを国内消費用と外国の消費者用に輸出していました。単に売り手と買い手の関係でしかなかったのです。

しかし、グローバル化の時代には、消費国（消費地域）や部品の生産や調達に適した国に企業が工場を建てるといのように急激な変化が起きたのです。それに伴い、人材もお金も国境を越えるだけではなく地球規模で行き来するようになったのです。サプライチェーンという言葉がマスコミ等でよく耳にしますが、このサプライチェーンも、グローバル化ならではの問題なのです。

更にそこで起きる労使紛争、文化的衝突、産業の空洞化、海外への資金流出、国内の失業者問題、法律問題など、様々な新たな取り組みも同時に行わなければならないことになったのです。

日本はバブル以後、以前は「日の丸企業」と言われて世界中で活躍していた日本の世界企業や、日本政府などが、これらの先行きを完全に見誤り、内向きになり、グローバル人材を育ててこなかった反動で、この 30 年以上の時間を無駄にし、現在の状況に追い込まれていったのです。要するに基準がグローバル・ルールに変わったのに、旧態依然としたローカル・ルールで対処し続けてきたままだったというわけです。

グローバル化に乗り遅れた日本とはいえ、二千年を遙かに超える国家として

の歴史をもつ我が国日本が、ただ指をくわえて自らの凋落を見ている訳にはいきません。今、日本に必要なのは、様々なグローバルに活躍できる真のグローバル人材、グローバル・リーダーなのです。

【今の子供たちに求められるもの】

未来を託す子供たちに、多種多様な文化や日本とは全く違う考えがグローバルにおいてはあることなどを教え、それを受け入れること、そして、その上で日本独自に文化を発展させる思考や方法を習得させることから始めるべきなのです。そのグローバル化による日本への良い影響を取り入れ、日本の伝統や文化を守りながら、グローバル化の恩恵を最大限に享受できるような人材になっ

て欲しいと、このグローバル教育を推進することを決意しました。

そのグローバル人材を今からでも育成していこうというのが、私どものグローバル教育のプロジェクトなのです。これは、一晩でできることではなく、子供の時からグローバルとは何かを理解することが、やがて、その子供たちが大人になったときに、ようやく真のグローバルで活躍できる人材となりえるのです。教育は、費用対効果が一番期待できる分野です。

グローバル人材にならなければ、今後、日本が地球上に生き残れないのは火を見るより明らかとなったのです。再び、日本が地球規模で貢献できる国になるための最初の一步を共に踏み出しましょう。

国際歴史論戦研究所 上席研究員 藤木俊一